

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 6 日

【評価実施概要】

事業所番号	3873700409		
法人名	株式会社 ステージアップ		
事業所名	グループホーム 優瑠里		
所在地	八幡浜市保内町喜木1-166-1 (電話) 0894-29-4122		
管理者	浅野 清美		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 12 月 2 日	評価確定日	平成 21 年 1 月 6 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 11 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 16 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 17 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	150 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 10 日事業所記入)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護 1	3 名	要介護 2	4 名
要介護 3	4 名	要介護 4	5 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 85 歳	最低 76 歳	最高 97 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2階建てのホームで、ホーム周辺にはみかん畑や住宅地が並んでいる。玄関は出入りが自由で、家族や近隣の方が気軽に訪問できる雰囲気がある。管理者及び職員は、理念にそって利用者の暮らしを支えている。職員は、「食事・入浴・排泄・生活歴」の4班に分かれて利用者一人ひとりについて話し合いを行い、マニュアルを作成して職員全員で共有しながら日々のケアを実践している。利用者は自分のペースで穏やかに過ごしている。広い駐車場で行われるホームの行事には、家族、近隣住民、ボランティア等の参加があり、地域との交流を深めている。避難訓練は、消防署の協力で行われる訓練以外にも毎月19日にホーム内で自主訓練を行っている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

現在の理念に「地域」という言葉は入っていないが、管理者及び職員は地域密着型サービスの意義を理解しており、理念はそのままつかっている。自己評価には職員全員で取り組んでいる。運営推進会議により多く参加してもらえるよう、開催時間等を検討中である。看取りに関する指針を定めている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

今回の自己評価は職員全員に意見を出してもらい、管理者がまとめている。自己評価をすることにより気づきも得られている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

会議ではホームの活動内容や取り組みの状況を報告したり、意見交換を行っている。出された要望や意見を職員で話し合い、サービスの向上に活かしている。さらに多くの地域住民に参加してもらうため、開催方法等について検討中である。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

玄関に意見箱を設置している。家族の来訪時や運営推進会議などでも要望や意見を聞いている。家族の要望や意見は職員で話し合いを行ったり、申し送りなどで全員に伝わるようにしている。重要事項説明書にホーム内及び外部の苦情相談窓口を明記している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

ホームは自治会や老人会には入っていないが、地域行事に参加したり、ホームの行事に地域の方に来てもらっている。ホームの行事にはボランティアにも参加してもらっている。近隣を散歩する時は挨拶を心がけている。また小学生、幼稚園・保育園児との交流もある。中学生の体験学習も受け入れている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム優瑠里

(ユニット名)

Aユニット

記入者(管理者)

氏名

浅野 清美

評価完了日

平成 20 年 11 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 入居者の「笑顔」「心身の健康」「生きがい」と大切にしたいケアに取り組んでいる。 (外部評価) 現在の理念の中に「地域」という言葉はないが、管理者及び職員は利用者が地域の中で暮らしていくことの大切さを十分理解しており、運営者が考えた開設当時の理念にそって利用者の日々の暮らしを支えている。	※	地域密着サービスの役割を盛り込んだ理念の見直しに取り組んでいきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念を玄関タイムレコーダー横に掲示し、職員採用時や、毎月開催のスタッフ会議で確認、実践に取り組んでいる。 (外部評価) 理念はスタッフルームやユニットに掲示し、誰でも見ることができるようになっている。管理者及び職員はスタッフ会議などで理念について確認し合い、共有を図り、実践につなげている。	※	日常生活の中で、理念を職員全員で共有し実践していきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 地域の民生委員、区長さんに運営推進委員になってもらい、理念を理解してもらえるよう伝えている。	※	地域の方々にも理念の取り組みを理解してもらえるよう伝えていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や買い物で出会ったときの挨拶、行事の際の声掛け等、近所づきあいができるようにしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 保育所、幼稚園、小中学校との交流や、地域の高齢者の集会への参加、地域商店夜市への参加など交流ができるように努めている。 (外部評価) ホームは自治会や老人会には入っていないが、地域行事に参加したり、ホームの行事に地域の人に来てもらっている。ホームの行事にはボランティアにも参加してもらっている。近隣を散歩する時は挨拶を心がけている。また小学生、幼稚園・保育園児との交流もあり、中学生の体験学習も受け入れている。	※	自治会や老人会へ入会し、更に利用者が地域住民と交流し、認知症に対する理解を深めていきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 職員が、地域のボランティア団体の会員として活動しているが、ホームとしての参加はない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 外部評価の結果をスタッフ会議で報告し、改善に向けて話し合い取り組んでいる。 (外部評価) 管理者及び職員は評価の意義を理解しており、自己評価も職員全員に意見を聞いてまとめている。外部評価の結果はスタッフ会議で報告し、改善に取り組んでいる。	※	評価の意義をスタッフ全員で理解し改善に取り組みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームの活動報告や取り組みの報告をし、質問や意見をもらっている。座談会形式や行事参加という形で意見が出やすいようにしている。	※	消防署、警察や近隣住民にも参加を呼びかけ、多様性のある推進会議にしていきたい。
			(外部評価) 会議では、ホームの活動内容や取り組みの状況を報告したり、意見交換を行っている。出された要望や意見を職員で話し合い、サービスの向上に活かしている。さらに多くの地域住民に参加してもらうために、開催時間等も含め検討中である。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に行政の方も出席してもらっている。市のGH連絡協議会で意見交換をしている。	※	気軽に行き来でき、意見交換や情報交換ができる関係作りを行っていきたい。
			(外部評価) 運営推進会議以外にも市の担当者に相談などを行っているほか、市のグループホーム連絡協議会の連絡などでも交流がある。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度利用の入居者がおり、おおよその制度は理解しているが、更に理解を深め対応できるようにしたい。	※	制度の内容を理解し、必要な人に活用できるようにしたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で気づいたときは、知らせあったり、スタッフ会議で議題にしたりして学んでいる。		常に注意を払っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は、必ず2名以上の職員が立ち会うようにし、理解しやすい説明ができるようにしている。	※	後日でも納得できるまで質問できる関係を築く。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置。さわやか相談員の訪問を受けている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月の便り、金銭出納張報告を送っている。家族のみのパスワードの必要なホームページで様子が見れるようにしている。 電話やメールで個別に必要なに応じて様子を知らせている。 訪問時にも近況を報告している。 (外部評価) 家族の来訪時や行事に参加した時などに報告するとともに、ホーム便りを作成して伝えている。状態に変化があればその都度電話で連絡している。衣替えは家族に訪問して行ってもらうため、その機会にも報告している。金銭管理については、金銭出納帳及びレシートのコピーを送っている。		家族より、手紙やメールで感想などをいただいております、職員の励みになったり、運営の向上につながったりしている。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 訪問時や便り電話で何でも話せる雰囲気作りをし要望等を聞いている。要望は職員で話し合い、申し送りし共通理解をしている。 (外部評価) 玄関に意見箱を設置している。家族の来訪時や運営推進会議などでも要望や意見を聞いている。家族の要望や意見は職員で話し合いを行ったり、申し送りなどで全員に伝わるようにしている。重要事項説明書にホーム内及び外部の苦情相談窓口を明記している。		要望は必ずスタッフ全員に申し送り、徹底している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のスタッフ会議の担当を職員の持ち回りとし、進行、内容を検討している。スタッフ会議では必ず一人一言発言の機会を作っている。毎土曜日ショートミーティングの日とし、話し合いを行っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況に応じてパート職員の出勤を要請している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者への配慮をしながら、異動をしている。異動時は慣れるまで複数勤務としている。 (外部評価) 離職や法人内の異動による影響は利用者によって違いがあるが、職員がフォローしている。また、新人の職員については利用者が不安にならないよう指導を行っている。	※	利用者が継続して馴染みのスタッフのケアを受けられるよう取り組みたい。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 様々な研修に誰でも参加できる様提示し、計画的に出席できるようにしている。また、研修内容をスタッフ会議で報告し、再学習する機会を設けている。 (外部評価) スタッフルームに研修の案内を掲示し、希望を聞いている。各自の希望により自己負担で参加した研修については報告書は作成していないが、事業所負担で参加した場合は報告書を作成し、スタッフ会議などで伝えている。	※	研修内容を皆で共有し実践していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 疑問に思ったことや、解決しづらいことは、電話等で他のグループホームの管理者等と情報交換している。自ホーム内の研修に、他の事業所の方にも声をかけ、参加してもらった。 (外部評価) 市や南予のグループホーム連絡協議会主催の研修会や勉強会に参加して交流を図っている。また、他のグループホームと訪問し合ったり、電話等で情報交換するなどしながら、相互のサービス向上に努めている。		市や、南予のGH連絡協議会や勉強会に参加している。研修等で、名刺交換をして仲間を増やせるように職員の名詞を製作して持たせている。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 希望者にストレス解消の講習に参加してもらった。職場外で、ざっくばらんに話をする機会を設けている。	※	バランスの取れたシフトが組め、特定の職員に負担のかかるようなことがないようにしたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員間で、してもらってうれしいこと、困ることなどのアンケートを取ったり、無記名で評価しあったりして、認め合ったり、改善したりできるようにした。運営者は毎日顔を出している。	※	常にお互い様の気持ちが持てるよう、良い所の伸ばし合いのできる職員関係を作る。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用前の面談では、本人の希望、思いを十分に聞き、それを生かせるプランを作成し職員に伝えている。		必ず本人に会い思いを生かせるように努めている。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人を含めた面談と、家族のみの面談を行い、家族の思いを受け止められるよう努力している。	※	無理強いすることなく、家族の思いが話せるような関係作りをしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応をする。 順番優先とし、他のサービス機関を紹介する。		必要に応じてサービス機関と連携が取れる。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ホーム見学をしてもらったり、説明を十分に行い、利用を決めてもらっている。利用前に本人と面談し、関係作りを行っている。 (外部評価) 本人や家族にホームに来てもらい、ひと時を過ごしてもらいなどして徐々に馴染むように配慮している。施設や病院から直接入居する方に対しては、ホーム側から訪問する場合もある。また、ホームのデイサービスを利用してから入居した例もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 支援する側される側との意識を持たず、食事の準備、レクリエーション等共に楽しみながら過ごし、人生の先輩としての知識を学ばせてもらっている。 (外部評価) 利用者から豊かな経験を聞いて学ぶことも多く、また得意分野を教えてもらったりしている。言葉かけを工夫して一緒に調理をしたり、後片付けをしてもらうなどして、日々の暮らしを楽しみながら、お互い支えあう関係を築くよう努めている。		一緒に作業したり楽しむことで得意分野で力が発揮できるようにしている。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 情報の共有に努め、一緒に本人を支える役割を持っていただき、喜怒哀楽を共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 行事に参加してもらったり、面会や外出、通院の同行をお願いしている。	※	家族と過ごす時間の有意義さを理解していただく。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美、理容店に行ったり、長年のかかりつけ医への通院を行っている。友人の訪問がある。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 一緒に活動できることを用意したり、個別に話を聞き、職員が仲立ちすることで関係を調整し支援している。		その日の心身の状況や気分、感情の変化に注意し、利用者同士の関係円滑になるようにしている。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用が終了しても行事に誘ったり電話で近況を尋ねている。	※	いつでも足を運んでもらえる関係を継続する。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で行動や表情から汲みとり、把握に努めている。 (外部評価) 日々の暮らしの中で、利用者に声をかけて希望や思いを聞いたり、家族にも来訪時などに思いを聞いている。また、表情や行動、体調などからも把握するよう努めている。	※	家族からの情報、検討も大切にする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人の語りや、家族にセンター方式のシートの記入を依頼し、生活歴等の把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活のリズムは心身の状況を把握し、記録として残し、把握に努めている。	※	気付きをセンター方式のシートに記入し、情報の共有に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の思い、家族からの要望、職員の気付きを検討し、本人本位の介護計画が作成できるように努めている。 (外部評価) 本人及び家族の希望や意見を聞いたり、職員の気づきや意見も採り入れて話し合いを行い、一人ひとりに合った具体的な介護計画を作成している。介護計画は家族に説明し、サインをもらっている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月ごとに評価し、プランの見直しを行っている。また、体調の変化、状況の変化に随時対応し、プランの見直しを行い、現状に即した計画を作成している。 (外部評価) 定期的に介護計画を見直し、評価も行っている。利用者の状況に変化が見られた場合には、その都度話し合いを行い、現状に合った新たな介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 申し送りやショートミーティング、ケアカンファレンス、会議等で情報を共有し記録し、実践や見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 医療連携体制を生かして、受診や体調管理を行っている。本人の要望等を配慮し、かかりつけ医以外の受診に同行し、支援している。 (外部評価) 家族がかかりつけ医の受診に付き添って行けない場合には、職員が受診を支援している。医療連携体制加算の指定を受けており、利用者や家族の希望に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員、ボランティア、教育機関との協力や働きかけ、訪問等がある。		消防署の普通救命講習にスタッフ全員で参加。消防署の協力のもと、防火訓練を行った。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の状況に応じて医療からの訪問看護の利用、支援を行った。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 事業所だけで解決できない問題やケアマネジメントについて相談している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 家族と話し合い、本人の希望によりかかりつけ医を決定、受診の援助をしている。週1～2回医療マッサージを家族の同意のもと支援している。 (外部評価) 本人及び家族の希望するかかりつけ医を受診してもらっている。家族が受診に行けない場合には職員が付き添っている。協力医療機関からの往診が月2回ある。協力医療機関がかかりつけ医でない利用者也、希望すれば診てもらえる体制がある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 家族と相談し専門医に受診しかかりつけ医と連携しながら引き続き対応している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師の定期訪問による健康相談や医師との連携、調整を行ってもらっている。訪問看護ステーションによる支援を受け状況の変化に対応した。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時は、本人の支援方法に関する情報を、医療機関に提供する。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 医師、訪問看護ステーション、家族との話し合いの機会を設け、ターミナルケアについての話し合いを行った。状況の変化等を随時報告、家族の意向を繰り返し確認、話し合いを行い、方針を共有した。 (外部評価) ホームに於ける看取りに関する指針が定められている。ホームとしては2例看取りの経験がある。状況の変化に応じて本人及び家族、医師、職員等で話し合いを行い、方針を決めている。家族の希望があり、ホームで看ることが可能であれば医師及び医療機関と連携して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) グループホームで対応できる医療を医師より家族に詳しく説明してもらい、皆が納得のもと、医師訪問看護ステーションと連携し支援を行った。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 介護サマリー等を作成し、早期理解に努めてもらう。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 人前であからさまに介護したり誘導の声かけをして傷つけることがないように配慮ある声かけや対応を行うよう努めている。 (外部評価) 職員の言葉かけは自然であり、共に暮らしているという感じがうかがえる。手洗い、トイレ、歯磨きの誘導もさりげなく声をかけている。また個人記録などはスタッフルームで適切に管理している。	※	個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底を図る。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 複数の選択肢を提案し、自分で決める場面をつくる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調や希望を大切に、得意なことが生かせるような支援に努めている。 (外部評価) ホームとしての日課はあるが、職員は利用者一人ひとりを把握し、その日の本人の体調や気分に合わせて支援している。利用者は自分のペースで穏やかに過ごしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 馴染みの理容、美容店のある人は出向いていく支援をしている。化粧の援助や訪問美容の利用をしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を知らせ、下準備をしてもらったり、一緒に料理をしてもらったりする。 菜園で収穫した野菜で料理する。 (外部評価) できる人に声をかけ、食事の準備、下ごしらえ、配膳や下膳、後片付けなどを職員と一緒にしている。職員は利用者と同じテーブルで、会話を楽しみながら食事している。	※	食事が楽しみとなるような支援をする。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の希望のあるものは可能な限り対応している。		他の利用者に迷惑がかからないよう配慮しながら、嗜好品が楽しめる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 時間や習慣を把握したトイレ誘導をすることで、トイレにて排泄をしてもらう。身長に合わせた台を置くことでしっかり地に足をつけた排泄をしてもらう。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 10:00～16:00ではあるが、希望時に入浴できる体制となっている。 身長に合わせた手作り補助具により安定した姿勢でゆっくり入浴できている。 (外部評価) 本人の希望する時間に入ってもらっている。入浴のチェックも行っている。入浴班があり、担当者が利用者ごとに声かけや準備の方法、手順などをファイルにまとめているが、状況が変わればその都度更新している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。眠れないときは好きな飲み物を勧めたり、ゆっくりした時間を過ごしていただき休息できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や力を生かして畑での野菜作りや、料理、掃除等の役割を担ってもらい気分転換や楽しみの支援をしている。感謝の言葉を伝えることで、張り合いを感じていただいている。 (外部評価) 職員は利用者に役割を持ってもらえるように声かけを工夫し、一緒に食事を作ったり、掃除をしたり、洗濯物をたたむなどの役割を担ってもらっている。また、近くの公園の散歩や買い物、畑の収穫などを楽しんでいる。ホーム内でも皆で俳句をしたり、テレビを観たり、体操をしたり、歌を唄うなどしながら過ごしている。	※	家族と協力して生活歴や楽しみ、好きなことを見つけ出し、自分のできることを増やしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほとんどの方が自己管理の希望がなく、混乱したり、隠して分からなくなったりする為、自己管理はしていない。自分でお金を持たれている方は、スタッフと菓子類の買い物に行かされている。	※	外出した際は自分の財布からお金を出す機会を作り、社会性の維持につなげる。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 買い物への同行、ドライブ、理髪などの外出を支援している。外出のない日も、戸外での外気浴、日光浴に努めているが、季節により限られている。 (外部評価) 近所の公園に散歩に出かけたり、希望があれば買い物に出かけたりしている。またホーム内に畑があり、利用者は職員と一緒に収穫を楽しんでいる。ホーム行事も外出の機会が多くもてるような計画を立てて支援している。	※	本人に合わせた移動方法で外出支援する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 本人が行きたいと思う遠い場所や、生活歴から職員が連れて行ってあげたいと思う外出については、予め予定を立て、家族の協力を依頼したり、職員の勤務を調整したりして支援している。	※	実現する為の方策を職員で話し合い検討し支援につなげる。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に電話ができる声かけや雰囲気作りをし支援している。手紙や贈り物をもらったら御礼の電話や手紙を書く援助をしている。	※	便りを出す機会を増やす。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 自然な形で歓迎している。居室に椅子を運びくつろいだ時間を過ごしてもらっている。行事等のある時は事前に誘いかけている。	※	家にいた時と同様に足を運んでもらえることを知らせる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ会議で確認している。気付かない言葉や動作による拘束に目を向けるよう努めている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は鍵をかけていない。チャイム等で対応している。 (外部評価) 利用者の自由な暮らしを支えるため、日中は玄関及び各ユニットの出入り口には鍵はかけられていない。チャイムはあるが、職員の見守りで十分対応できている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するように努めている。 夜間は居室全体的見渡せる場所で業務をしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 危険な物を全て取り除くのではなく、注意が必要な物、箇所を職員が把握し、危険防止に努めている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 日々のヒヤリハットを記録し、事故が起きた場合は事故報告書を作成し、家族への報告と説明をしている。そして今後の予防を検討している。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 全ての職員が普通救命講習を受講し、応急手当や初期対応の訓練を行った。	※	繰り返し勉強し身につくようにする。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回消防署報告の避難訓練をしている。毎月19日は避難訓練の日としている。2階利用者の避難に難点がある。近隣住民の協力がまだ得られていない。 (外部評価) 定期的に消防署の協力を得て避難訓練を行っているほか、毎月19日にはホーム内で自主避難訓練を行っている。マニュアルや緊急連絡網も作成している。2階からの避難は特に困難であるため、地域住民に声をかけ、協力を得る予定である。	※	2階の避難が特に困難であることから、近隣の方か地区消防団との協力体制を整えたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりうるリスクを把握し、家族等と話し合い説明し、役割活動や外出等を実施した。	※	起こりうるリスクを把握し安全に実施する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 申し送り、業務日誌、検温表、介護記録のチェックで健康状態を把握している。変化は直ぐにホーム長に連絡すると共に、職員で共有する。	※	顔色、機嫌、動作、食欲、皮膚の様子等常に注意し、兆候を見落とさない。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 名前、日付、朝昼夕の区別等一つ一つ記入し、誤薬のないよう努めている。1回分ずつを手渡しし、見守りや介助をしている。	※	薬の目的、効果、用法、副作用など勉強会をし、しっかりと把握できるようにしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 身長に合わせた足台を用意し、安定した姿勢でしっかりと踏ん張れるように工夫している。運動、姿勢、食事、水分に気をつけている。排便チェックをし便秘薬を使っている。	※	自然に排便できるように取り組んでいきたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声かけを行い、自分ケアの後、職員が仕上げを行っている。就寝時には義歯をはずしてもらっている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分量の摂取状況を表にまとめ、職員が情報を共有している。日々の食事摂取量や栄養バランスについて専門家のアドバイスは受けていない。	※	職員が献立を作成し、その後栄養士に専門的なアドバイスやチェックをしてもらうようにしたい。
			(外部評価) 利用者一人ひとりについて、食事摂取量や水分量を個人記録に残し、把握している。食事担当の職員が栄養のバランスを考えた献立を作成し、調理方法も個人に合わせて配慮しているが、栄養摂取量の把握はできていない。	※	おおまかな栄養摂取量の把握のためにも、定期的に献立を栄養士に見てもらうなど、専門的な観点からのチェックが望まれる。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に関して情報収集する。ペーパータオルの使用。感染症対応のマニュアルができていない。	※	感染症対応のマニュアルを作成する。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板、布巾は毎晩漂白している。食材担当者が食材チェックをして賞味期限内で使いきれるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先にベンチを置き、入居者が涼んでいたり日向ぼっこをしていることで温かみを感じられる工夫をしている。	※	近所の人が気安く立ち寄り、休息できたり、子供たちが遊びに来れる庭先にしたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間は全員が囲める食卓とソファがあり洗濯の音、料理の音、匂い、TV、電話の音など生活音がよく聞こえ、家の生活を感じ取れる。 (外部評価) 各ユニットのスタッフルームから居間及び居室が見渡せ、職員は利用者の見守りがしやすい構造となっている。利用者はソファや畳など好みの場所でそれぞれ過ごしており、居間には季節を感じられる飾りや利用者の俳句などが飾られている。	※	壁面の飾りを手作りし、季節を感じ取ってもらう工夫をしたり、製作を手伝ってもらうようにする。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者同士でゆっくりくつろげる工夫をしたり、食事のテーブルでは花や絵を目隠しかわりとし、配慮している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者それぞれの好みの物や使い慣れたベッドやTV、家族の写真を飾っている。カーテンは防火用のもので統一している。 (外部評価) 利用者の状態や希望に合わせて、畳を敷いている居室もある。家庭で使用していた馴染みの家具やテレビなどを持ち込んでおり、飾り付けもそれぞれ思い思いに飾られており、個性的な部屋となっている。洗面所も各部屋に取り付けられている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 窓やドアの開閉、冷暖房の調整により常に配慮している。入居者の訴えや様子により、細かく注意を払っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 椅子やテーブルは個人に合ったものを使用している。補助具を使うことで、一人ひとりに合った生活ができるように工夫している。	※	一人ひとりの利用しやすい環境になるよう、日々観察、修繕できる力を育て「まあいいか」と言う気持ちにならない。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) その人の力を生かせる事は何かを見つけ出せるよう話し合っている。	※	入居者の気持ちが汲みとれる職員でありたい。
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花壇、菜園を利用し、季節の花、野菜を入居者と作ったり、草引きの作業を行っている。	※	庭での食事やおやつを楽しむ。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	かなえてあげられない思いは、楽しみとして話をし、それに向けての思いを盛り上げる手助けをしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	外気浴や日向ぼっこ、洗濯物たたみをしながらゆっくりと過ごす。昔話と職員の現在の生活の話混せて、談話を楽しむ。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	職員の手が足りないとき、待たせてしまったり、せかしてしまったりすることがあるが、できる限りその人のペースに合わせるようにすべきであることを、職員は自覚している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	声をかけたり、誘ったり、一緒に行くことで、できることを増やしていくよう心がけている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	生活歴や、知人関係などを聞き取り調査し、自ら希望されるとき、あるいは誘いかけにより、外出するようにしている。出たがらない方もいる。個々のお出かけプランも計画している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	希望の医療機関への受診を行い、また、健康チェックや視診、触診などで、適当な医療機関を選択している。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	生活日数が増えるにつれ、事例や対応の仕方が増え、職員の話し合いにより、様々な支援を試みている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	要望や思い、気づいたことなどを言葉にしてくれる家族は決まっているので、気軽に何でも話していただける関係を作りたい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	家族や知人、近所の子供が遊びに来てくれる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	散歩での会話や、行事への参加者の増加が見られる。日用品や野菜の提供などがある。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間で、優先順位や価値観が違っている場合、その日のメンバーの組み合わせで、楽しい日、仕事のきつい日ができてくるようだ。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自分のできることをされ、おだやかに過ごされている。 自分の思いを訴えられている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	クレームはあまりないが、これは満足しているのか、あるいは遠慮しているのか、判断しにくい点である。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・ 医療的 (悪いところを見つけて治す) 介護ではなく、 保育的 (いいところを見つけて伸ばす) 介護をする。
- ・ ヘルプ (余計なお世話によって、相手を物言わぬ受身の人へと変え、自分の意思ややりたいことを削いでしまう可能性がある)ではなく、サポート (やる気を出してもらうための黒子的な役割、出来ないところは手伝い、出来ることを見つけて伸ばし、自分にも出来ることがあることに気づいてもらう) でありたい。
- ・ 家族、知人、地域の方がいつでも遊びに来てくれるグループホーム。
- ・ 十人十色のサービスが出来るグループホーム。
- ・ 物的にも、人的にも明るい環境で、いつも笑い声が聞こえてくるグループホーム。
- ・ 食事、入浴、排泄、生活歴 (センター方式のケアプラン) の4班に分かれてチーム研修及び勉強、マニュアル作成などにより、プロジェクト展開中。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム優瑠里

(ユニット名)

Bユニット

記入者(管理者)

氏名

浅野 清美

評価完了日

平成 20 年 11 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「笑顔」「心身の健康」「生きがい」を理念に掲げ、その人らしい生き方を支援している。 (外部評価) 現在の理念の中に「地域」という言葉はないが、管理者及び職員は利用者が地域の中で暮らしていくことの大切さを十分理解しており、運営者が考えた開設当時の理念にそって利用者の日々の暮らしを支えている。	※	入居者の笑顔、笑いのある生活を目標に日々取り組んでいる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ホームの見やすい所に明示し、職員全員で共有し日々実践に向けて取り組んでいる。 (外部評価) 理念はスタッフルームやユニットに掲示し、誰でも見ることができるようになっている。管理者及び職員はスタッフ会議などで理念について確認し合い、共有を図り、実践につなげている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念の浸透は不十分であるが、施設の方針や日々の取り組みに関して、理解が得られるよう努力している。	※	毎月発行している広報誌や、2ヶ月ごとに行っている運営推進会議等で理解してもらえるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近隣の人には日々の挨拶を心がけている。食材等も地域のスーパーから発注し、買い物に出かけている。近隣の子供たちが、気軽にホームに遊びに来てくれる。	※	園内で収穫した野菜等を入居者と一緒に近所におすそ分けに回ったりする。入居者の顔を知ってもらうためにも、訪問してもらおう機会を増やしていきたいと考えている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) イベントには隣近所や地域のボランティア、学校、保育園等にも呼びかけ、地域の行事への積極的な参加も心がけている。 (外部評価) ホームは自治会や老人会には入っていないが、地域行事に参加したり、ホームの行事に地域の人に来てもらっている。ホームの行事にはボランティアにも参加してもらっている。近隣を散歩する時は挨拶を心がけている。また小学生、幼稚園・保育園児との交流もあり、中学生の体験学習も受け入れている。	※	自治会や老人会への認知症に対する理解を深めていき、交流を持てるようにしたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) ボランティアに参加していただく機会が多いが、こちらから出向くことは少ないように思う。 職員でボランティアグループに入って活動している者がいる。	※	今後、地域貢献に向けて、ボランティア活動等に参加していきたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 外部評価によって指摘を受けた事柄に関して話し合い、改善に向けて取り組んでいる。研修等で他の事業所の良いところも取り入れるよう努力している。 (外部評価) 管理者及び職員は評価の意義を理解しており、自己評価も職員全員に意見を聞いてまとめている。外部評価の結果はスタッフ会議で報告し、改善に取り組んでいる。	※	自己評価をスタッフ全員で取り組む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催しており、事業所内での取り組みや入居者の状況等を報告している。そのとき気づいたことや、意見等を伺い、改善に活かしている。		
			(外部評価) 会議では、ホームの活動内容や取り組みの状況を報告したり、意見交換を行っている。出された要望や意見を職員で話し合い、サービスの向上に活かしている。さらに多くの地域住民に参加してもらうために、開催時間等も含め検討中である。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) グループホーム連絡協議会等で、市町村と意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	※	頻繁に、意見交換や、情報交換ができる体制を作る。
			(外部評価) 運営推進会議以外でも市の担当者に相談などを行っているほか、市のグループホーム連絡協議会の連絡などでも交流がある。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等により学ぶ機会はあるが、今、当ユニットには、該当者はいない。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体拘束、虐待は行わないということを全ての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアが実践されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 書類と説明を通じて分かりやすく示している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 本人や家族の実質の声を出示してもらえらる機会作りを積極的に行っている。入居者の方とじっくりと話をし、様子等把握している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時に、職員が暮らしぶりや日常の様子を伝えたり、広報誌で情報提供をしている。 金銭管理は定期的に出納を明らかにしている。 (外部評価) 家族の来訪時や行事に参加した時などに報告するとともに、ホーム便りを作成して伝えている。状態に変化があればその都度電話で連絡している。衣替えは家族に訪問して行ってもらうため、その機会にも報告している。金銭管理については、金銭出納帳及びレシートのコピーを送っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族が気がかりなことや意見、希望を職員に気軽に伝えたり、相談したりできるように面接時の声かけ、連絡等を行っている。 (外部評価) 玄関に意見箱を設置している。家族の来訪時や運営推進会議などでも要望や意見を聞いている。家族の要望や意見は職員で話し合いを行ったり、申し送りなどで全員に伝わるようにしている。重要事項説明書にホーム内及び外部の苦情相談窓口を明記している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月スタッフ会議を設け、研修報告や取り組みについての経過報告、行事計画や結果報告を行っている。その他意見交換の場にもなっている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 早朝や夜間等職員が1人になるため対応しにくい場合もあるが、状況の変化に応じて、経営者やホーム長、近隣に住む職員が柔軟に対応している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の異動を極力避け、入居者の状態や生活の流れを常に把握し、馴染みの関係を大切にしている。 (外部評価) 離職や法人内の異動による影響は利用者によって違いがあるが、職員がフォローしている。また、新人の職員については利用者が不安にならないよう指導を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 多方面の研修の参加を実施している。職員全員にケアの技術や工夫を身につける研修の機会が確保されており、希望する研修に参加している。 (外部評価) スタッフルームに研修の案内を掲示し、希望を開いている。各自の希望により自己負担で参加した研修については報告書は作成していないが、事業所負担で参加した場合は報告書を作成し、スタッフ会議などで伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他の事業所との交流の機会があり、良いところを取り入れる努力をしている。 (外部評価) 市や南予のグループホーム連絡協議会主催の研修会や勉強会に参加して交流を図っている。また、他のグループホームと訪問し合ったり、電話等で情報交換するなどしながら、相互のサービス向上に努めている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取ができています。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている	(自己評価) 多方面の研修の実施や、目標に向けての取り組みに対し、各グループリーダーを配置し、職員全体が、向上心を持って働けるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居以前に面接し、家族や本人から話を伺い、不安や要望等について受け止めるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族等と入居前に話を伺う機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居者が出来ること、出来ないことを職員全員が見極め、必要な支援を行うようにしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前に見学に来てもらい、施設内を見たり、入居者の方や職員と話をしていたりしている。 (外部評価) 本人や家族にホームに来てもらい、ひと時を過ごしてもらいなどして徐々に馴染むように配慮している。施設や病院から直接入居する方に対しては、ホーム側から訪問する場合もある。また、ホームのデイサービスを利用してから入居した例もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として教えてもらったり、支えてもらったりする関係を築いている。 レクリエーション等と一緒に楽しみ喜怒哀楽を共にしている。 (外部評価) 利用者から豊かな経験を聞いて学ぶことも多く、また得意分野を教えてもらったりしている。言葉かけを工夫して一緒に調理をしたり、後片付けをしてもらうなどして、日々の暮らしを楽しみながら、お互い支えあう関係を築くよう努めている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 頻繁に面会に来られる家族とは話す機会も多く、その都度関係を築いているが、面会の少ない家族については実施されにくい。	※	情報の共有に努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 複雑な家族関係にはあまり立ち入れない部分もあるが、よりよい関係が築いていけるよう、毎月広報誌を郵送したり、行事に参加してもらえよう案内したりしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) なるべく大切にしていきたいと考えているが、生家や実家に帰りたいと願う方もおられ、難しい面も多い。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 職員は利用者同士のトラブル等の原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 体調の悪化で一度退所された方も、回復したらまた入居したいと順番を待っておられたり、ターミナルケアにて亡くなられた利用者のご家族が、今も差し入れを持って来てくださる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来る限り希望がかなうように努力している。 ほとんどの入居者が、自由で本人の意向に沿った生活をしていると思う。居室内側の施錠、テレビ、冷蔵庫の持ち込み、日中の過ごし方等。 (外部評価) 日々の暮らしの中で、利用者に声をかけて希望や思いを聞いたり、家族にも来訪時などに思いを聞いている。また、表情や行動、体調などからも把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式に基づきこれまでの生活習慣や暮らしについて把握できるよう努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人ひとり自由に過ごしてもらっている。なるべく家事全般を協力してもらえるようにしているが、居室にこもってしまわれる方もあり、更に努力が必要である。身体状況については、毎朝バイタルチェックを行い、把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者、ご家族の意見を反映させた実践可能なケアプランの見直しを3ヶ月毎に行っている。毎週土曜日カンファレンスを行っている。 (外部評価) 本人及び家族の希望や意見を聞いたり、職員の気づきや意見も採り入れて話し合いを行い、一人ひとりに合った具体的な介護計画を作成している。介護計画は家族に説明し、サインをもらっている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 定期的に計画の見直しに努めている。面会時に家族から要望を伺うようにしている。なお著しい変化があった場合は見直しをするようにしている。 (外部評価) 定期的に介護計画を見直し、評価も行っている。利用者の状況に変化が見られた場合には、その都度話し合いを行い、現状に合った新たな介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの「特徴や変化を具体的に記録し、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 要望があれば、生活全般において出来ることは、何でも支援するようにしている。 (外部評価) 家族がかかりつけ医の受診に付き添って行けない場合には、職員が受診を支援している。医療連携体制加算の指定を受けており、利用者や家族の希望に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員やボランティアの方々に、運営推進委員になってもらい行事への参加等で協力してもらっている。消防に関しては避難訓練に立ち会ってもらい、消火器の使い方等指導してもらっている。高校生のボランティアの訪問や、保育園児の訪問等交流をしている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) していない		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) していない		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 月に2度の訪診や定期受診、必要に応じての受診等を実施している。入居前のかかりつけ医院を継続している方も多い。 (外部評価) 本人及び家族の希望するかかりつけ医を受診してもらっている。家族が受診に行けない場合には職員が付き添っている。協力医療機関からの往診が月2回ある。協力医療機関がかかりつけ医でない利用者も、希望すれば診てもらえる体制がある。	※	利用前のかかりつけ医や、希望する医療機関への受診の支援をする。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 受診の際は、気になる状態を詳しく説明し、指導をもらう。	※	様子を詳しく医師に報告することで、薬を軽減したり、対応方法を検討したりしている。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師の定期訪問による健康相談や医師との連携、調整を行ってもらっている。訪問看護ステーションによる支援を受け状況の変化に対応した。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院された場合、医療機関との連絡を取ったり、見舞いに行く等して、情報交換や相談に努めている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 共有できていない。 (外部評価) ホームに於ける看取りに関する指針が定められている。ホームとしては2例看取りの経験がある。状況の変化に応じて本人及び家族、医師、職員等で話し合いを行い、方針を決めている。家族の希望があり、ホームで看ることが可能であれば医師及び医療機関と連携して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 今後検討していく必要がある。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 今後検討していく必要がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 相手の立場に立った言葉かけに、十分留意している。記録に関しても、プライバシーを損ねるような取り扱いはしていない。 (外部評価) 職員の言葉かけは自然であり、共に暮らしているという感じがうかがえる。手洗い、トイレ、歯磨きの誘導もさりげなく声をかけている。また個人記録などはスタッフルームで適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 入居者の自己決定と希望を大事にしている。出来る限り一人ひとりの希望や訴えをかなえられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく希望がかなうよう努力している。本人の訴えや要望により、ひとりの人につききりになることもある。 (外部評価) ホームとしての日課はあるが、職員は利用者一人ひとりを把握し、その日の本人の体調や気分に合わせて支援している。利用者は自分のペースで穏やかに過ごしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 出張美容の契約をしており、要望の都度訪問してもらっている。外出や行事等、その人らしい服装を楽しめるよう支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 施設内で取れた野菜を使ったり、調理準備、皮むき、盛り付けなど、出来る方にしてもらっている。洗い物は、特定の人に偏っている。 (外部評価) できる人に声をかけ、食事の準備、下ごしらえ、配膳や下膳、後片付けなどを職員と一緒にしている。職員は利用者と同じテーブルで、会話を楽しみながら食事している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 居室内ではあるが、毎晩ビールを楽しまれている方もある。入居者の希望を取り入れ、嗜好の支援をしている。	※	一緒に飲む機会を作りたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 日中は全ての方が布パンツで過ごされている。こまめな声かけやトイレ誘導を行い気持ちの良い排泄ができるように心がけている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日入浴できるようにしている。職員数の確保できる時間帯で行っている。 (外部評価) 本人の希望する時間に入ってもらっている。入浴のチェックも行っている。入浴班があり、担当者が利用者ごとに声かけや準備の方法、手順などをファイルにまとめているが、状況が変わればその都度更新している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 時間帯に関係なく、要望に応じて居室、リビングの畳、ソファで休んでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 園芸、食器洗い、洗濯物たたみ等、役割を自覚できることをしてもらっている。それまでの習慣を大切に、本人の意思を尊重している。 (外部評価) 職員は利用者に役割を持ってもらえるように声かけを工夫し、一緒に食事を作ったり、掃除をしたり、洗濯物をたたむなどの役割を担ってもらっている。また、近くの公園の散歩や買い物、畑の収穫などを楽しんでいる。ホーム内でも皆で俳句をしたり、テレビを観たり、体操をしたり、歌を唄うなどしながら過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持や計算の可能な方はご自身で所有管理されている。一緒に買い物に出かけ自分で支払ったり、職員に依頼し、正確に買い物の代金の支払いをされたりしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 買い物に行く機会が日常的にある。近くの公園に散歩に行ったりしている。 (外部評価) 近所の公園に散歩に出かけたり、希望があれば買い物に出かけたりしている。またホーム内に畑があり、利用者は職員と一緒に収穫を楽しんでいる。ホーム行事も外出の機会が多くもてるような計画を立てて支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 馴染みの職員と外食をしたり、家族と出かけたりする機会を作っている。年間行事のイチゴ狩りや花見に出かけたりしている。動物園、温泉などにも行っている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は自由にかけてもらっている。家族には本人が絵葉書や、年賀状を出す支援をしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 時間を問わず、自由に訪問することができ、居室やリビングでくつろいでもらえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行わないということを、職員全員が認識しており、徹底されている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間帯のみ玄関に施錠しているが、それ以外は居室や玄関に一切施錠していない。 (外部評価) 利用者の自由な暮らしを支えるため、日中は玄関及び各ユニットの出入り口には鍵はかけられていない。チャイムはあるが、職員の見守りで十分対応できている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 一人ひとりが現在何をして過ごしているかの把握に努め、夜間は定期的に巡室を行っている。内から施錠している方は、外から様子のみ伺うようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 危険な物を全て取り除くのではなく、注意が必要な物、箇所を職員がしっかり把握している。管理している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 転倒防止に努め見守りに留意している。誤薬を防ぐ為、内服管理を厳重に行い、内服時は見守りしている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 十分ではないが全職員が応急手当、初期対応の訓練を受けた。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 毎月19日に避難訓練を事業所独自で実施している。Bユニット利用者の避難に難点がある。 (外部評価) 定期的に消防署の協力を得て避難訓練を行っているほか、毎月19日にはホーム内で自主避難訓練を行っている。マニュアルや緊急連絡網も作成している。2階からの避難は特に困難であるため、地域住民に声をかけ、協力を得る予定である。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 家族が訪問に来られたときに、リスクについての話もすることがある。	※	家族との話し合いの場を増やしていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 入浴時に皮膚や外見の異変を観察したり、毎日バイタルチェックを行い血圧や体温の変動に留意している。食欲の変化や排泄の周期にも留意し、対応に結びつけている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に日付等を書き、一人ひとりの薬を個別に管理し用法や用量を理解し、医師の指示どおり適切に内服を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) もっときめ細やかな工夫が必要だと思う。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 居室に洗面台があり、口腔の清潔保持に努めている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの摂取量を把握し、一覧表にしている。一人ひとりの嫌いな食材については、出来るだけ排除している。水分摂取量も毎日チェックし書き込んでいる。 (外部評価) 利用者一人ひとりについて、食事摂取量や水分量を個人記録に残し、把握している。食事担当の職員が栄養のバランスを考えた献立を作成し、調理方法も個人に合わせて配慮しているが、栄養摂取量の把握はできていない。	※	おおまかな栄養摂取量の把握のためにも、定期的に献立を栄養士に見てもらうなど、専門的な観点からのチェックが望まれる。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 手洗いの励行。インフルエンザに関しては、毎年職員、入居者共に予防接種を受けている。排泄物の取り扱いには手袋を使用し、適宜消毒液の使用も実施している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は毎日届くようになっており、いつも新鮮なものを使える。調理用具は食洗機で殺菌を行っており、まな板や布巾も毎日ハイター消毒している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関ポーチにはベンチが設置されており、気軽に腰をかけていただけるようにしている。建物周囲に菜園や花壇を設けており、駐車場も広くオープンで出入りしやすくなっている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには四季折々の草花を飾り、めだかや金魚も飼育している。壁に季節感が分かるような飾り付けをしている。 (外部評価) 各ユニットのスタッフルームから居間及び居室が見渡せ、職員は利用者の見守りがしやすい構造となっている。利用者はソファや畳など好みの場所でそれぞれ過ごしており、居間には季節を感じられる飾りや利用者の俳句などが飾られている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングでの座席の配置は、人間関係や、その方の体格に配慮した位置にしている。また、そのときの体調や気持ちの変化に応じて席を変える等工夫している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家具等は家庭で使い慣れたものを使用してもらっているが、消防法により、カーテンやじゅうたんは防炎加工のものを使用している。 (外部評価) 利用者の状態や希望に合わせて、畳を敷いている居室もある。家庭で使用していた馴染みの家具やテレビなどを持ち込んでおり、飾り付けもそれぞれ思い思いに飾られており、個性的な部屋となっている。洗面所も各部屋に取り付けられている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室の換気扇は常に作動しており、毎日の掃除の際や日中等、網戸にして換気に努めている。今年は猛暑のため暑いと訴えられる方が多く、エアコンを使用する頻度が多くなっている。夜間はつけたままにならないよう、巡室の際に注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 特に浴室やトイレは、手すりや足代等を工夫し、その方の体格に応じた補助具を使用している。食卓のテーブルも3種類の高さにしており、椅子も体格に合わせ、高さを変えている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 入居者の出来ること、出来そうなことについては、手や口を極力出さず見守ったり、一緒に行くようにしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花壇や菜園を設け四季折々の草花や野菜を栽培しており、入居者の方々と、草引きをしたり、収穫を楽しんだりしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	かなえてあげられない思いは、楽しみとして話をし、それに向けての思いを盛り上げる手助けをしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	外気浴や日向ぼっこ、洗濯物たたみをしながらゆっくりと過ごす。昔話と職員の現在の生活の話混せて、談話を楽しむ。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	職員の手が足りないとき、待たせてしまったり、せかしてしまったりすることがあるが、できる限りその人のペースに合わせるようにすべきであることを、職員は自覚している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	声をかけたり、誘ったり、一緒に行くことで、できることを増やしていくよう心がけている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	生活歴や、知人関係などを聞き取り調査し、自ら希望されるとき、あるいは誘いかけにより、外出するようにしている。出たがらない方もいる。個々のお出かけプランも計画している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	希望の医療機関への受診を行い、また、健康チェックや視診、触診などで、適当な医療機関を選択している。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	生活日数が増えるにつれ、事例や対応の仕方が増え、職員の話し合いにより、様々な支援を試みている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	要望や思い、気づいたことなどを言葉にしてくれる家族は決まっているので、気軽に何でも話していただける関係を作りたい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	家族や知人、近所の子供が遊びに来てくれる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	散歩での会話や、行事への参加者の増加が見られる。日用品や野菜の提供などがある。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間で、優先順位や価値観が違っている場合、その日のメンバーの組み合わせで、楽しい日、仕事のきつい日ができてくるようだ。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自分のできることをされ、おだやかに過ごされている。 自分の思いを訴えられている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	クレームはあまりないが、これは満足しているのか、あるいは遠慮しているのか、判断しにくい点である。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・学習療法---公文の学習療法を取り入れている。
- ・入浴---心地よく安全な入浴をしていただけるよう、補助具の制作を行い使用している。
- ・排泄---気持ちよく排泄していただけるようこまめなトイレ誘導をし、補助具(足台等)の制作を行い使用している。
- ・センター方式---その人らしい以前の生活を知り、生き活きとした生活をしていただけるよう、少しずつセンター方式を取り入れている。
- ・食生活の充実---無駄を省き一人ひとりに合わせた分量や形態、体調に合わせた食事作りを行っている。

緑がいっぱいでのどかな環境に位置し、毎日ほのぼのとした生活をしています。お花見、いちご狩り、バーベキュー、餅つき、お祭り等年間行事も豊富で家族、地域、ボランティア等の協力をいただき、入居者、スタッフとも生き活きと生活しています。自分が認知症になったとき入りたいと思える施設です。自宅に代わる我が家です。